

桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.foo.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。どなたでもご参加いただけます。それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

第22回

2014年
4月26日(土)
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス16号館 820号室

★どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。参加無料。

☆終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)

※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。

※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



満映の世界

今回の桑野塾は満洲映画に迫ります。甘粕が理事長となる前の初期満映と、ロシア語でつくられた映画『私の鷺』をテーマに、いまなお注目を浴びる満洲映画を掘り下げます。

甘粕以前の初期満映について

報告者: 上田 学



1937年に「満洲国」の国策会社として誕生した満洲映画協会(満映)は、従来、甘粕正彦が理事長に就任した1939年以降を中心に語られてきた。甘粕以前の満映は、その製作体制の「未熟さ」から映画史において批判的に語られ、関心を集めてこなかったのである。

しかし、この時期は雑誌刊行や俳優養成など、のちの満映の発展にもつながる活動が展開されていた。本発表は、演員訓練所出身の女優の活躍や、芥川光蔵らによる満鉄映画製作所の活動も視野に入れて、初期満映にあらためて照明をあててみたい。

洪熙街に建設された撮影所の完成予想図・模型
雑誌『満洲映画』1巻1号(1937年)より

映画『私の鷺』に関わった人々——日露文化交流史の影のなかで

報告者: 井上 徹

『私の鷺』は、東宝が満洲映画協会(満映)と共同で製作した日満合作映画です。女優・李香蘭の代表作のひとつとされる作品にもかかわらず、製作時には公開されなかったというのが定説とされています。果たしてこの作品は、いかなる素性の作品だったのでしょうか。

日露文化交流史の闇の結節点ともいえるこの作品に関わった人々の群像を紹介しつつ、この影に少しばかり光を当ててみたいと思います。



李香蘭
雑誌『満洲映画』4巻3号(1940年)表紙より